



いしだ
石田 実
水曜会
(60分)

感染症対策ガイドラインは

問 新型コロナウイルス感染症の第2波に備え、本市では、予防から終息までの各段階の行動指針となる「新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」を全国に先駆け策定することのことだが、その骨子は。

答 職場編と家庭編の2つに分



きむら
木村 素子
水曜会
(60分)

福山ネウボラの充実

問 ①子育て応援センターの移設後の機能は。また、遊び場のある相談窓口の設置予定は。
②児童虐待における役割は。
③他機関との連携は。

答 ①すこやかセンターへの移設後も、ネウボラ相談窓口「あのね」や遊びの広場、ファミリー・

け、新型コロナウイルス感染症の概要、平常時や発生時の対策、終息に向けての対策を共通の骨子として7月上旬には策定する。

特に職場編では、平常時の対策として職員の健康状態の把握が患者の早期発見等につながることを示し、発生時の対策に迅速なPCR検査による感染拡大防止や情報公開の在り方等を盛り込む。

また、終息に向けての対策にはガイドラインに沿った対応ができていない事業所を認証し、風評被害の防止につながることも盛り込んでいきたい。

サポート・センター事業等の機能は維持する。また、子育て家庭が訪れやすい場所、例えば商業施設内への「あのね」開設を検討する。

②児童虐待による死亡事例は0歳児が約5割を占めており「あのね」では妊娠中から信頼関係を築く中で切れ目のない支援を行っている。保護者に寄り添った支援が児童虐待の未然防止につながると考える。

③ネウボラ相談員はさまざまな相談を受け、連携が必要な場合は担当部署につなぎ課題解決を図っている。丁寧な連携を行い、課題を総合的に解決できるよう努める。



はだ
羽田 俊介
水曜会
(60分)

人口減少社会への対応は

問 ①過疎地域の公共交通の確保は。
②地域コミュニティーの機能低下への対策は。

答 ①福山・笠岡地域公共交通網形成計画に基づき、公共交通を基本としつつ地域特性や利用実態に合った乗り合いタクシーやおで

が分かりにくい」といった多くの声を聞いている。

本市では、4月から専用の相談窓口を開設し、各種支援制度の紹介、融資に必要な証明の発行、フクビズと連携した専門家による相談などの対応を行っている。引き続き、事業者の手に必要な資金が迅速に届くよう努める。

②制度の説明や申請方法をホームページ、学内専用のポータルサイトに掲示するとともに、学生全員にメールで周知している。また、教員からも学生に対して制度の周知を行っている。



つかもと
塚本 裕三
公明党
(35分)

新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援は

問 ①事業者向け相談窓口の現状と課題は。
②福山市立大学における学生支援緊急給付金制度は。

答 ①事業者から「支援制度が多岐にわたり、どの制度を利用したら良いかわからない」申請方法

かけ支援事業等による移動手段の確保に努めてきた。今後も、自動運転やオンデマンド交通など新たな取り組みを加えながら、移動手段のさらなる確保に努める。

②地域では、これまでの役員中心のまちづくりから、新たな担い手の発掘、育成による「みんなで取り組む地域づくり」への転換に向けたモデル事業を開始した。行政も地域への依頼事項の抜本的な見直し等の負担軽減策に取り組みしており、人口減少時代にあっても安心して暮らせる持続可能な地域共生社会をめざしていく。

※ICT (Information and Communication Technology) (P.4) : 情報通信技術の略でインターネットなどの通信技術を利用したサービスの総称
※オンデマンド交通: 利用者の予約があるときのみ運行する、乗り合いによる地域の公共交通のこと